

アジアの活力を取り込む 先端成長産業の国際拠点

福岡県

日本海、瀬戸内海、有明海の3つの海に面し、古来より日本と海外を結ぶ窓口として発展してきた福岡県。アジアの玄関口として九州の国際コンテナ貨物の約9割を取り扱う「博多港」と「北九州港」が有名であるが、自動車関連産業を支え、博多港とほぼ同等の貨物量を取り扱う苅田港で、国内最大級の規模を誇る「新松山臨海工業団地」の分譲を4月に開始する。

唯一日本海側の、アジアを向いた大都市圏として発展を続ける福岡県。官営八幡製鐵所の操業開始以来、日本の近代化、発展をけん引してきたこの地には、技術の蓄積があり、"ものづくり"を支える多くの企業が集積している。また、上海、ソウルが東京よりも近いという地理的条件にある。

自然災害が少なく、南海トラフ巨大地震による津波の影響も少ないとされる福岡県は、新たな生産拠点を設けて事業継続計画（BCP）を充実させる面からも立地に適していると言えるだろう。

さらに、福岡県は、高水準の教育と技術力を身につけ、働く意欲に満ちた優秀な若い人材が豊富で、中国・韓国を中心としたアジアからの留学生が多いのも特徴。成長著しいアジアに近く、アジアの活力を取り込む生産拠点として、また次世代産業の戦略的な立地にかなう国際拠点として期待がかかる。



東北九州自動車道の開通は人流、物流の起爆剤になると期待される

始され、戦後、埋め立て造成された広大な工業地帯に次々と企業が立地し始めた。その先陣を切った九州電力苅田火力発電所の進出に続き、日本の戦後復興、発展に尽力してきたセメント工場の操業開始、1975年には、日産自動車九州工場（現・日産自動車九州）が進出した。20



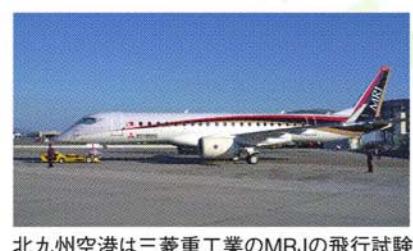
拡大し続ける苅田港。進出する企業が多くその必要性から港ができた生糸の産業港

国の重要港湾に指定され、博多港とほぼ同等の年間約35000万トンの貨物量を取り扱う苅田港は、瀬戸内海の西側に位置する周防灘に面する。



海上輸送の機能性向上が進む苅田港

05年にはトヨタ自動車九州苅田工場、2008年のトヨタ自動車小倉工場、2009年には日産車体九州がそれぞれ進出した。大手企業の進出、その必要性から港ができた生糸の産業港と言える苅田港は、自動車関連産業やセメント関連企業を支える重要な役割を担っている。



北九州空港は三菱重工業のMRJの飛行試験や駐機のサブ拠点となる

国際的な物流拠点や航空機産業の立地も

北九州空港から3km(5分)



An aerial photograph of the newly developed Nishimatsuura Seaside Industrial Estate. The image shows a modern airport terminal building with a long, curved roofline. In front of the terminal is a large parking lot filled with cars. To the left, several airplanes are parked at gates. The estate is situated on a coastal strip with a bridge visible in the background over a body of water.

昨年2月、三菱重工業が、国産小型ジェット旅客機「三菱リージョナルジェット（MRJ）」の飛行試験や駐機のサブ拠点として、北九州空港を活用することを発表。福岡県では、2010年、航空機産業の振興を目的に、産学官が一体となって「福岡県航空機産業振興会議」を設立した。MRJなどに関連する企業の誘致と地場企業の航空機産業参入を目的に、福岡県が働きかけを行ってきた。

お問合せ先

福岡県商工部企業立地課

〒812-8577
福岡市博多区東公園7-7

TEL 092-643-3441

FAX 092-643-3443

福岡県

◎ 情向深